令和 7 年

第 4 回 教 育 委 員 会 定 例 会 会 議 録

令和 7 年 4 月 3 日

水 戸 市 教 育 委 員 会

令和7年第4回教育委員会定例会

1 開催日時 令和7年4月3日(木) 午後5時00分 開会
午後5時30分 閉会

2 開催場所 ホテルレイクビュー水戸 4階 なでしこ

3 出席者 教育長 志田晴美
委員 丸山陽子
委員 内田和子
委員 三浦綾佳

4 欠席者 委員 篠崎和則(教育長職務代理者)

5 説明のため出席した職員の職, 氏名

教育部長	三宅修
総合教育研究所長	田村悟
参事(県費負担教職員担当)	嶋志田泰
参事(教育研究課題担当)	熊田泰瑞
技監兼学校施設課長	和田英嗣
参事兼生涯学習課長	林栄一
参事兼歴史文化財課長	小川邦明
教育企画課長	湯澤康一
学校管理課長	山田規生
学校保健給食課長	相沢秀幸
中央図書館長	堀野辺直
教育研究課長	安田理恵

6 傍聴人 なし

7 本日の日程

(1) 報告

- ① 令和7年第1回市議会定例会質問及び答弁内容等について【公開】
- ② 水戸市地域文化財の認定について【公開】

8 会議の概要

午後5時00分 開会

○志田教育長 ただいまから、令和7年第4回教育委員会定例会を開会いたします。

本日、篠崎委員から欠席との連絡がありましたので、御報告いたします。

初めに、先の市議会定例会において同意をいただき、令和7年3月25日付けで任命されました三浦綾佳委員から一言、御挨拶をお願いいたします。

○三浦委員 三浦綾佳と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

現在、農業の会社を経営しておりまして、10年目になります。

平成元年生まれでして、年齢は35歳でございます。

「ゆとり教育」から「脱ゆとり教育」に切り替わる時期を経験してきております。

教育の分野につきましては、今まで経験してきた分野とは異なるため、御迷惑をおかけするかと思いますが、御指導よろしくをお願いいたします。

○志田教育長 ありがとうございます。

それでは、教育委員会会議に出席の職員から順に自己紹介をお願いいたします。

○三宅教育部長 教育部長の三宅と申します。よろしくをお願いいたします。

○鴨志田教育部参事 教育部参事の鴨志田と申します。よろしくをお願いいたします。

○田村総合教育研究所長 総合教育研究所長の田村と申します。よろしくをお願いいたします。

○湯澤教育企画課長 教育企画課長の湯澤と申します。よろしくをお願いいたします。

○林参事兼生涯学習課長 参事兼生涯学習課長の林と申します。よろしくをお願いいたします。

○小川参事兼歴史文化財課長 参事兼歴史文化財課長の小川と申します。よろしくをお願いいたします。

○山田学校管理課長 学校管理課長の山田と申します。よろしくをお願いいたします。

○安田教育研究課長 教育研究課長の安田と申します。よろしくをお願いいたします。

○熊田教育部参事 教育部参事の熊田と申します。よろしくをお願いいたします。

○和田技監兼学校施設課長 技監兼学校施設課長の和田と申します。よろしくをお願いいたします。

○相沢学校保健給食課長 学校保健給食課長の相沢と申します。よろしくをお願いいたします。

○堀野辺中央図書館長 中央図書館長の堀野辺と申します。よろしくをお願いいたします。

○藤井教育企画課副参事兼課長補佐 教育企画課副参事兼課長補佐の藤井と申します。よろしくをお願いいたします。

○萩野谷教育企画課企画係長 教育企画課企画係長の萩野谷と申します。よろしくをお願いいたします。

○高橋教育企画課主事 教育企画課企画係の高橋と申します。よろしくをお願いいたします。

○志田教育長 ありがとうございます。

それでは、初めに、教育長職務代理者の指名についてでございますが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項で、「教育長に事故があるとき、又は教育長が欠けたときは、あらかじめその指名する委員がその職務を行う。」と定められております。

このたび、教育長職務代理者であった富田委員が令和7年3月24日をもって任期満了となりましたので、この法律に基づき、令和7年3月25日付けで篠崎委員を教育長職務代理者に指名させていただきましたので、よろしくをお願いいたします。

また、会議録署名人についてでございますが、水戸市教育委員会会議規則第16条第2項の規定に基づき、会議録には、教育長及び会議で決めた委員1名の署名が必要となります。

つきましては、会議録の署名は、引き続き、教育長職務代理者をお願いしたいと思いますので、御了承願います。

なお、教育長職務代理者が会議を欠席された場合は、ほかの委員から決定をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

本日、会議録署名人である篠崎委員が欠席のため、本日の会議録署名人について、ほかの委員から決定をさせていただきます。

本日の会議録署名人は、丸山委員をお願いしたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○志田教育長 それでは、そのように決定させていただきます。

それでは、これより報告を行います。

報告(1) 令和7年第1回水戸市議会定例会質問及び答弁内容等について、説明願います。

三宅教育部長。

○三宅教育部長 それでは、資料の1ページをお開き願います。

報告(1) 令和7年第1回水戸市議会定例会質問及び答弁内容等について、御説明いたします。

初めに、1会期でございますが、令和7年3月3日から3月19日までの17日間でございます。

2本会議の状況につきましては、4会派10議員から発言通告がございました。

質問及び答弁内容につきましては、学校教育部門では、教職員の資質向上についての御質問や歴史教育について、水戸スタイルの教育についてなど16項目21件、社会教育部門につきましては、日本遺産についての御質問が2件ございました。

主なものについて、4点御説明させていただきます。

初めに、ページを返していただき、2ページをお開き願います。

部活動の地域移行についての御質問に対しましては、国においては、子どもたちが将来にわたって継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境整備を目的に、まずは休日の部活動を地域へ移行することとしており、本市においても、休日の地域クラブ実証事業として、部員数が減少し、学校単位で団体競技のチームが組めない学校の軟式野球において、飯富中学校を拠点に、双葉台中学校、国田義務教育学校の3校で実施するほか、第四中学校に本市で唯一存在するレスリングにおいては、競技経験のある専門の指導者が休日の指導に当たっており、成果としましては、専門的な指導者が指導に当たることで、効率的・効果的な活動ができたことなどが挙げられ、令和7年度につきましては、実証事業の競技種目を拡充し、検証を深めていくこと、また、実証事業におきましては、指導者の確保、会場までの移動手段、財源確保など、多くの課題が明確になったところであり、指導者確保に当たっては、人材バンクを設置し、指導者を募集するとともに、大学や企業等へ広く指導者の協力を依頼し、財源確保に当たっては、企業からの御協賛や水戸黄門ふるさと寄附金の活用を検討するとともに、保護者の負担軽減が図られるよう、公費負担の在り方や家庭の経済的状況により子どもの活動機会に差が生じないように、支援の在り方についても検討していくこと、学校の部活動は、様々な体験を通して、成長への大きな糧となっていることから、本市におきましては、単一校で活動できる部活動においては、引き続き、在籍校で活動ができるよう、現行の部活動を継承した地域移行のあり方を構築するとともに、休日の指導を希望する意欲ある教員が指導に当たれる体制を整え、教育的意義を担保しながら、子どもたちが地域移行をとおり、スポー

ツ・文化芸術活動に親しむことができる環境づくりを推進し、令和8年度以降の早期に、休日の部活動の地域移行が実現できるよう取り組んでいくことなどについて答弁をしております。

次に、7ページをお開き願います。

宿泊を伴う自然教室についての御質問に対しましては、本市では、平成5年度から中学2年生を対象に、船による移動と北海道の豊かな自然を体験させる「船中泊を伴う自然教室」を実施しており、実施後の生徒・保護者のアンケートでは、満足度の高い結果を得ておりますが、船中泊は活動場所や活動内容、実施期間など枠組みが決まっており、生徒が主体的に企画し、決定する活動が限られており、また、感染症が発生した際、船内で発熱者が多数発生するなど、健康面への懸念のほか、近年は、価格高騰により宿泊料金やバス料金等が値上がりし、年々保護者負担が大きくなっていることから、船中泊による自然教室の在り方を見直し、行き先や活動内容を生徒自ら決定することで、これまで以上に、生徒の主体的な活動を促し、自主性や判断力を育む、より教育的意義の高い「新たな自然体験教室」へ令和8年度から移行していくことなどについて答弁をしております。

次に、17ページをお開き願います。

オーガニック給食についての御質問に対しましては、本市では、令和5年11月に鯉淵小学校において、初めて、有機農産物を活用したオーガニック給食を提供し、令和6年度は取組を拡大し、内原小学校において、日本農業実践学園で生産された十数種類の有機農産物を継続して使用しているほか、11月には、三の丸小学校において、近隣の生産者による有機農産物のかぶを使用した給食を提供したこと、一方で、オーガニック給食の推進に当たりましては、安定的な供給体制が確立されておらず、必要な時に十分な量を確保することが困難であることや、通常の食品に比べて高価であることなどの課題もあり、有機農産物の生産に向けた取組を推進しているJA水戸や市内の生産者等との連携のもと、有機農産物の季節ごと・品目ごとの生産量や、学校給食への供給体制等に関する情報を把握しながら、オーガニック給食の推進に努めていくことなどについて答弁しております。

次に、25ページをお開き願います。

校内フリースクールについての御質問に対しましては、本市では、令和6年度から、校内フリースクールを、全ての中学校に開設し、運営方法を工夫しながら、生徒が自分の居場所として活用できる環境整備を行っており、校内フリースクールに通うことで、在籍学級の授業や給食に参加したり、学校行事に参加した事例も見受けられるほか、不登校に至っていないものの、不登校傾向にある生徒においても、一時的な利用や体験等で利用しており、未然防止の役割も果たしていること、小学校への拡充については、令和7年度は、学校規模や各学校の実情を踏まえるとともに、地域バランス等を考慮し、小学校6校に校内フリースクールを開設して、教員免許を有する支援員を新たに配置し、学習支援、教育相談を行うとともに、発達段階に応じた支援が必要となることから、コミュニケーション活動や協働による集団活動など、児童の興味関心のある活動に取り組めるよう環境を整えていき、これら6校での取組の成果等を踏まえ、段階的に校内フリースクールを必要とする全ての小学校への拡充を検討していくことなどについて答弁をしております。

その他、詳細につきましては、後ほどお目通しをいただければと思います。

説明は、以上でございます。

○志田教育長 それでは、委員より御質問等がございましたら、発言願います。

丸山委員。

○丸山委員 2ページの部活動の地域移行につきまして、3ページに「保護者負担軽減が図られるよう、公費負担の在り方を決定してまいりたい」との記載がございますが、現状での見通しとし

てはどのような状況なのでしょう。

○志田教育長 熊田教育部参事。

○熊田教育部参事 保護者負担につきまして、既に地域移行を実施している自治体においては、保護者の方に負担いただいている事例が多数ございます。

本市においては、保護者負担につきましては、現在検討しているところではございますが、保護者に負担いただく場合においても、可能な限り低い金額にしなければならないと考えております。

保護者負担を低い金額にするための方法としては、資料に記載のとおり、水戸黄門ふるさと寄附金等の活用を検討しております。

また、国の財源等があれば、そちらの活用も可能ではございますが、国の今後の動き等が不明であるため、現状は情報収集をしているところです。

○志田教育長 丸山委員。

○丸山委員 企業からの御協賛等を恒久的なものにするために御協力いただける企業をこれから検討していく必要がありますね。

○志田教育長 そうなのです。

単発であれば、高額な寄附金をいただくことはできるかもしれませんが、地域移行のための財源として考えれば、低額でも末永く寄附金をいただく状況が望ましいので、企業を回り、寄附金を募りたいと考えております。

その寄附金及び市の負担する額等の検討をした上で、最終的に保護者負担を決定いたします。

○志田教育長 内田委員。

○内田委員 7ページの宿泊を伴う自然教室につきまして、令和7年第3回教育委員会定例会においても協議いたしましたが、「船中泊を伴う自然教室」の在り方を見直し、「新たな自然体験教室」に移行することで、これまで以上に、生徒の主体的な活動を促し、魅力のある体験活動を実施することができるのではないかと大変期待しております。

生徒が一から企画するためには、生徒が意見を出し合って創り上げるための時間を充実させる必要があると思います。

郷土教育の充実に関する質問への答弁において、水戸まごころタイムに位置付けている「水戸数学」を取り上げておりますが、今後、水戸まごころタイムに何を位置付けていくのかをさらに検討いただき、水戸市らしい教育を展開していただきたいと思っております。

○志田教育長 三浦委員。

○三浦委員 17ページのオーガニック給食につきましては、導入するためには課題が多いものだと認識しております。

農林水産省においても、「みどりの食料システム戦略」を策定し、「有機農業の取組面積の拡大」を推進しておりますが、異常気象が発生している日本の気候に対して有機栽培自体が適していない部分があります。

食材が大量に必要となる給食にそのような状況にある有機農産物を導入することは課題が多いため、例えば、「みどりの食料システム法」に基づき、化学肥料・農薬の使用低減などに取り組む農業者の認定制度である「いばらきみどり認定」に認定されている農業者が生産した農産物を活用することも良いのではないかと思います。

また、部活動の地域移行につきまして、私が教育を受けた広島県では、中学生が高校に出向き高校生に指導されることや、高校生が中学校に出向き中学生を指導するということがありましたので、

外部の指導者に委託することで発生する費用を抑えるために、中学校と高等学校の連携が可能ではないかと思えます。

高校生が中学生を指導することで、その高校生の能力の向上にもつながると思われまし、人へ教える場を増やすことによって、教員を目指したいと思う高校生の増加につながる可能性もあると思えます。

○志田教育長 まず、オーガニック給食に関する御意見につきまして、相沢学校保健給食課長。

○相沢学校保健給食課長 三浦委員がおっしゃるとおり、給食で提供するために必要な有機農産物の量を確保することは、かなり難しい状況でございます。

内原小学校において、提供している有機農産物につきましては、小学校の近くにある日本農業実践学園で栽培されたものを使用しております。

日本農業実践学園では、季節ごとに様々な有機農産物を作っているため、十数種類の有機農産物を季節ごとに提供できたという状況でございます。

オーガニック給食のさらなる拡大としては、JA水戸が市内に設置した試験ほ場やJA水戸有機農業研究会にて、オーガニック給食に向けた取組を行っているため、そこで栽培された有機農産物についても、現在、使用しております。

有機農産物を活用することで、今後、有機JAS認証等の取得につながっていくと考えております。

三浦委員もおっしゃっていたとおり、給食に有機農産物を導入することは課題が多いため、JA水戸では、有機農産物ではないが、農薬及び化学肥料を使用していないという特徴の農産物を栽培しているため、そのようなものを活用しながら、最終的には有機農産物の活用を進めてまいりたいと考えております。

○志田教育長 次に、部活動の地域移行に関する御意見につきまして、熊田教育部参事。

○熊田教育部参事 休日の部活動の地域移行につきましては、人材バンクを設置し、それに地域の方が登録をするような形で進めていきたいと考えておりますので、委託ではなく、地域連携のような形で考えております。

三浦委員からの御意見のように、中学校の部活動に関わっていただくために、教職員の他に企業の方、運動団体の方及び学生等に幅広く呼びかけていく必要があると思っておりますので、そのような準備をしていきたいと思っております。

○志田教育長 三浦委員がおっしゃった「いばらきみどり認定」というのは、オーガニックのような基準で、オーガニックほど厳しくないものという認識でよろしいですか。

三浦委員。

○三浦委員 そうです。環境負荷の低減に取り組む事業計画を提出し、茨城県の認定を受けた生産者です。

○志田教育長 大量に生産ができないために、量が少なく、高価であることがオーガニックの課題ですが、いばらきみどり認定に認定された農産物は、給食に使用できる量があるという認識でよろしいでしょうか。

三浦委員。

○三浦委員 元々、JAで扱うことができる食材の認定として「エコファーマー」と呼ばれる認定があり、その認定が現代にあわせて「いばらきみどり認定」という認定に変わりました。

価格につきましては、有機農産物ほど高価ではありません。

○志田教育長 相沢学校保健給食課長。

○相沢学校保健給食課長 茨城県においても、茨城県の慣行レベルに比べて、節減対象農薬の使用回数や化学肥料の窒素成分が50%以下で栽培された農産物を「特別栽培農産物」として認証する「茨城県特別栽培農産物認証制度」がございまして、市内で特別栽培農産物の認証を受けている生産者がいれば、その制度の活用は可能です。

○志田教育長 三浦委員。

○三浦委員 いばらきみどり認定の方が茨城県特別栽培農産物認証制度よりも取り組みやすいものであるため、活用の幅が広がると思います。

○志田教育長 量や価格次第では、活用できる余地があるため、いばらきみどり認定に認定されている農業者が生産した農産物の活用を検討いたします。

部活動の地域移行につきましては、熊田参事からもあったように、指導者には大学生も想定しております。

また、本市は、高等学校と高校生の数が県内で一番多いため、高校生の活用も検討いたします。ほかにございせんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○志田教育長 ないようでございまして、この件について終わります。

次に、報告(2) 水戸市地域文化財の認定について、説明願います。

小川参事兼歴史文化財課長。

○小川参事兼歴史文化財課長 それでは、報告(2) 水戸市地域文化財の認定について、別紙により御説明させていただきます。

令和7年3月19日に2件の地域文化財を認定いたしましたので、御報告いたします。

1件目は、水戸の座敷舞です。

(2)区分は、無形文化財、(3)保持団体は、一般社団法人水戸芸能士協会です。

(5)概要といたしましては、本件は、水戸の花街で継承されてきた芸能でございます。

江戸時代前期の頃、京都の茶屋女たちが、歌舞伎を真似て三味線や踊りを披露するようになり、江戸時代末期の頃、江戸を経由して水戸にも流入しました。

明治時代以降、水戸の芸妓は、北関東一の数誇ったものの、次第に下火となり、令和6年時点では1名となっております。

水戸伝統のお座敷文化消滅の危機を感じた大工町三業組合は、昭和56年に「芸能士協会」を仮発足させ、名取級の芸を持つ女性を「芸能士」として認定登録し、お座敷文化の継承を試み、平成21年には芸能士協会を法人化させ、芸妓から舞・三味線の技を伝授された者を「舞方」として登録し、お座敷文化の存続を図る活動を行っております。近代以降の水戸の花柳界を物語る上で欠かすことのできない芸能でございます。

ページを返していただきまして、2件目は、親鸞聖人御田植の伝承地でございます。

(2)区分は、史跡、(3)所有者は、個人です。

(4)所在地は、水戸市飯富町2083番1です。

(6)概要といたしましては、本件は、浄土真宗の開祖である親鸞聖人が民衆に御田植歌を授けたと伝わる地でございます。

伝承といたしましては、現在の飯富町にやって来た親鸞が、自ら田に分け入って仏の厚恩を説く御田植歌を伝承したところ、人々は感動し、以後当地ではこの御田植歌が歌い継がれたといわれて

おります。

大正12年には、親鸞聖人の遺徳を慕う人々の浄財によって顕彰碑が建立されました。

現在、御田植歌を歌う習慣は失われましたが、飯富地区では今なお「親鸞聖人御田植の旧跡」として親しまれており、地域の歴史を物語る上で欠かすことのできない文化財と言えます。

説明は、以上でございます。

○志田教育長 それでは、委員より御質問等がございましたら、発言願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○志田教育長 ないようでございますので、この件について終わります。

以上をもちまして、本日の案件につきましては、全て終了いたしました。

その他、何かございますか。

湯澤教育企画課長。

○湯澤教育企画課長 教育委員会会議等の今後の予定につきまして、4月24日午後6時から開催予定である第5回教育委員会定例会でございますが、水戸京成ホテル3階「翡翠の間」にて行いたいと思います。併せて、終了後にむつみ会歓送迎会を行いたいと思いますので、よろしく願います。

また、5月14日開催予定である第6回教育委員会定例会でございますが、午前8時45分から行いたいと思いますので、よろしく願います。

以上でございます。

○志田教育長 その他、何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○志田教育長 ないようでございますので、それでは、以上をもちまして、本日の定例会を閉会いたします。

御苦勞様でした。

午後5時30分 閉会